

令和7年度 大田区立大森第一中学校 自己評価報告書

令和8年2月18日

○ 本校の概要

◆教育目標 人権尊重の精神を基盤とし、豊かな人間性と生きる力の育成を目指し、以下の目標を掲げる。
 ・きまりを守り、責任を果たす人になろう ・自ら進んでよく学びよく働く人になろう ・心身ともに健康で情操豊かな人になろう ・互いに尊重しあい思いやりのある人になろう
 ◆生徒数 全校生徒197名(1年:66名、2年60名、3年71名) ◆教員数 17名
 ◆学級数 6学級(1年:2学級、2年:2学級、3年:2学級)
 ◆特色ある教育活動 生徒を中心に取り組む運動会、縦割りクラスで高め合う音楽祭への取り組み、全校道徳、カサゴ稚魚放流(令和7年度はヒラメ稚魚)

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組目標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄							
								評価人数	コメント						
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来社 会を 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 ④教員は、「分かりやすい授業」を行うためにICT活用などを工夫している。⇒87% ⑦学校は、「生きる力」を育むために進路指導として、1年「職業調べ」、2年「職場体験・上級学校調べ」、3年「面接指導」を行っている。これらの活動は生徒に役立っている。⇒95% ⑩生徒会活動や委員会活動は充実している。⇒92% ⑫学校行事は楽しく充実している。⇒96%	4: 80%以上	①日常から理数教科の授業充実を図り、校内展示会や区の展示会、ものづくりフォーラム等に向けた美術・技術・家庭科での作品作りを通して、体験活動や論理的思考力の育成を図っている。数学については通年で週2日の放課後補習教室を実施した。 ②総合的な学習の時間における地域と連携した校外学習(1学年ヒラメ稚魚放流体験・2学年職場体験)等を通して生徒自ら課題を設定し、解決方法を見出し、グループで協働していく活動を進めながら、生徒自身の力を育んでいけるよう努めている。 ③校内研修会や授業研究等の機会を活用し、タブレット端末の活用促進を図るとともに、生徒自身が端末を日常的に授業で使う頻度を増やすことで、情報活用能力の向上につなげている。	A	5	・「STEAM」教育や「情報活用能力の育成」といった現代的な教育課題への対応は評価できる点です。 ・学校内外での多様な体験活動を重視している点について、子どもたちの実践的な学びにつながると感じます。 ・職場体験は地域の方との交流の場として、また仕事を通じて将来の就職について展望できるよい機会だと思います。 ・ヒラメ稚魚放流も海に面したこの地域ならではの行事で、海に親しむ良い機会だと思います。 ・学校公開の時に2年生の職場体験の発表を見ましたが、職種も様々で、子ども達にとっても良い経験だと思います。 ・自宅で子どもがタブレットを使用している姿を見た時に当たり前のようにはブライントタッチで入力して、少し驚きましたが(自宅にPCがないのでできずと思っていた)PCありきの世の中で柔軟性のある10代のうちから活用できるよう指導してもらえるのはありがたいです。 ・①と②は評価高く判断されているが少し違和感を覚える。1段階下の評価ではないか。 ・③については現代っ子ならではの容易でもある。正しい情報を見極められる力をつけられると良いと思います。					
											4: 60%以上	①英語科では区から配置されているALTの活用を図りながらオールイングリッシュの授業を推進し、生徒同士での英会話によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。また、学習効果測定の結果をもとに授業改善プランを各教科で作成し、小中一貫教育の会などで小学校の先生方と共有しながら日常の授業改善に生かしている。 ②地域に協力を求め、地域人材や施設と連携した学習(ヒラメ稚魚放流体験・職場体験等)を推進し、生徒達が自分たちの育った大森南地域への愛着と誇りをもつことができるよう努めている。また、道徳科の授業を通して人権教育資料を活用した授業を実施するとともに、日常の学級指導等の機会を通して他者の人権について考える機会を作っている。 ③総合的な学習の時間における環境学習や、地域と連携した「ヒラメ稚魚放流体験」等を通して、生徒が海洋汚染等の環境問題について自分事ととらえ、その解決に向けて地球市民の一員として何ができるか考えをもつことができるようにしている。			
											2: 60%未満		A 8	1	・コミュニケーション重視の新しい英語教育は実践的な英会話能力の向上につながると思います。 ・地域社会との連携を通じて、子どもたちが地域の伝統文化への関心を高め大切に守り伝えようとするようになると思います。 ・身近な行動から世界共通の課題解決に向けて貢献しようとする意識が高まると感じます。 ・英語力はこれからの社会では必須だと思います。読むだけではなく、話す、理解する力が必要です。オールイングリッシュの授業はとても良いと思います。 ・取り組みとしては素晴らしいと思いますが、我が子には英語力が充分には身につけていないようなので、苦手な子どもでも興味を持てるようにできれば、全体の英語力の底上げになると感じます。 ・地元や地域愛が育まれていると思います。
											1: 40%未満				
4: 80%以上	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 ⑦学校は、「生きる力」を育むために進路指導として、1年「職業調べ」、2年「職場体験・上級学校調べ」、3年「面接指導」を行っている。これらの活動は生徒に役立っている。⇒95% ⑩生徒会活動や委員会活動は充実している。⇒92% ⑫学校行事は楽しく充実している。⇒96%	4: 60%以上	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	3	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 ③教員の授業は分かりやすい。⇒75% ④教員は、「分かりやすい授業」を行うためにICT活用などを工夫している。⇒87% ⑤教員は、授業の中で、話し合い活動をよく行っている。⇒87% ⑦生徒の学力は向上している。⇒61% ⑧学校の、学級指導・生徒指導・道徳指導を通して、規範意識が向上している。⇒88%	4: 80%以上	①道徳地区公開講座の機会等を活用し、生徒及び保護者に対して道徳教育の重要性についての理解を深めることができた。引き続き全校道徳や学校教育全体で道徳教育に取り組む、生徒たちの豊かな心を育てていく。 ②英語科・数学科については習熟度別の指導を実施するとともに、学習補助員がT2として入り学習支援を行った。数学科では通年で週2回の放課後補習教室を実施し、課題に取り組めない生徒のフォローアップに努めたが、まだ十分とは言えない。今後さらに拡充を図り、生徒の学力向上につなげたい。 ③小学校と連携して作成している「体力向上計画」に基づき、体育科の授業開始時に通年でやっている補強運動の時間を活用し、生徒の基礎体力の向上を図っている。「早寝・早起き・朝ごはん月間」の資料配布や朝礼、生活での講話等を通して、生活リズムの改善を図るとともに、健康的な生活を送れるよう指導を継続していく。 ④引き続き、小中一貫教育の会などの機会を活用しながら小学校の先生方とともに課題を共有しつつ、中学校生活において学校におけるルールを守ることの重要性を理解させ、規範意識を高めさせる。	A	5	・道徳教育の重要性について理解を深めることは、いじめの未然防止や規範意識の向上につながると思います。 ・学習習熟度に応じた指導や個別の支援は生徒の可能性を伸ばす上で良いと思います。 ・健康教育、食育、幼保小中連携は子どもの健やかな成長を支える基盤として不可欠な取り組みだと思います。 ・習熟度別の指導は必須です。一段ずつ理解の段階を高め、中学校卒業レベルの学力をつけたいと、高校進学後、苦勞することになります。小学校との連携も重要です。クラス担任制から教科担任制に急になると、戸惑いが生じます。なめらかに移行できるといいのですが… ・思春期の子どもらしさはあれど、どの子もいい子です。きちんと挨拶ができる・場面に合わせて礼儀を知っている・善悪の区別がついている・友人を思いやる心がある子どもたちです。多少ハメはずすことはあるでしょうが、大人として、人として、この先、世の中に出ていくための基礎は身につけられていると思います。					
3: 60%以上											B 4	C 4			
2: 60%未満	D	1: 40%未満													

<p>学個別校力・教4師力を向上させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答</p> <p>以下の設問への肯定的な回答の割合</p> <p>③教員の授業は分かりやすい。 ⇒75%</p> <p>④教員は、「分かりやすい授業」を行うためにICT活用などを工夫している。 ⇒87%</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 60%以上</p> <p>4</p> <p>2: 60%未満</p> <p>1: 40%未満</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>8</p> <p>1</p> <p>・先生方の業務適正化に取り組み、子どもと向き合う時間を確保していただき心強く思います。</p> <p>・先生方の心身の健康が教育の質の向上に直結すると考えています。</p> <p>・授業が一方通行でなくパソコンを使い、モニターの画面で、動画などを使ってわかりやすくなっていると感じました。</p> <p>・一般的に教職者というのは大変だと言われていますが、私たちの想像以上の大変さだと思います。それでも、子どものため、学校のためにと尽力してくださり頭が下がる思いです。先生方には本当に感謝しています。</p>
<p>た自個め分別のら目学し標びく5をい支援いきと生きる</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況に合わせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p> <p>④生徒一人一人のニーズに応じた特別支援や不登校生徒の学習環境を整え、地域人材等を活用しながら適切な支援に努めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答</p> <p>以下の設問への肯定的な回答の割合</p> <p>⑥学校の、学級指導・生徒指導・道徳指導を通して、規範意識が向上している。 ⇒88%</p> <p>⑦学校は、いじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組んでいる。 ⇒88%</p> <p>⑩教員は、生徒を理解して相談や悩みについて親身に対応している。 ⇒90%</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 60%以上</p> <p>4</p> <p>2: 60%未満</p> <p>1: 40%未満</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>6</p> <p>3</p> <p>・教職員の業務適正化を図りつつ、特別支援教育の充実やいじめ防止などの課題に対して組織的に取り組んでいる姿勢が見て取れました。</p> <p>・子どもが多様化していると思います。親の考え方も多様化しています。不登校の生徒もやがて卒業して社会に出ていくわけだから、社会で生きていく力を身につけて欲しいです。</p> <p>・外側から見ていると大きな問題などはないように見えますが、それは教職員の皆さんが何かあったとしても問題が小さくうちに解決に向けて尽力してくださっているのだらうなと思います。</p> <p>・生徒一人ひとり悩みを抱えている問題はそれぞれあると思いますが、笑顔で学校に通えるよう保護者として、PTA役員(OB)として微力ながらお手伝いできればと思います。</p>
<p>安柔個心軟別なで目教育創標環造6境な学をつくり間と安全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答</p> <p>以下の設問への肯定的な回答の割合</p> <p>④教員は、「分かりやすい授業」を行うためにICT活用などを工夫している。 ⇒87%</p> <p>⑦学校は地域の力(保護者以外)を生徒の教育活動に活かしている。 ⇒78%</p> <p>⑧生徒は地域の一員として自覚をもち、地域の活動に貢献している。 ⇒70%</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 60%以上</p> <p>3</p> <p>2: 60%未満</p> <p>1: 40%未満</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>7</p> <p>2</p> <p>・伝統の継承は大変良いことですが、ICT環境のさらなる充実もお願いします。</p> <p>・避難訓練等を実践的に抜き打ちで実施してみたいです。</p> <p>⇒年間2回、予告なしの避難訓練を実施しています。</p> <p>・大災害が起きた時に一番頼りになるのは中学生だと思います。地域にいて、大人並みにいろいろな事ができるので、期待しています。</p> <p>・学校近くに住んでいるため、時々訓練の放送が聞こえてきます。震災の被害の様子はTVなどで見たことはあっても実際に身の回りに起こらない限り、どこか他人事だと思ってしまうものだと思いますので、いざという時のために訓練は大切だと思います。ありがとうございます。</p>
<p>学地学個別校域校力をコ・目つミ家標くりニユ庭7リニ・ます地域コミュニティの核と連携して協働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p> <p>○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答</p> <p>以下の設問への肯定的な回答の割合</p> <p>⑩学校は、生徒や保護者に学級や学校の様子を便りや保護者会・面談などで積極的に知らせている。 ⇒97%</p> <p>⑩生徒は、学校からの各種の便りやお知らせなどの配布物を保護者に見せている。 ⇒88%</p> <p>⑦学校は地域の力(保護者以外)を生徒の教育活動に活かしている。 ⇒78%</p>	<p>4: 80%以上</p> <p>3: 60%以上</p> <p>4</p> <p>2: 60%未満</p> <p>1: 40%未満</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>7</p> <p>2</p> <p>・地域力を生かした教育活動を今後も継続していただきたいです。</p> <p>・登下校の見守り活動は、今後も地域の協力で実施して行って欲しいです。</p> <p>・祭礼や地域の行事では生徒会を中心にしたボランティアが協力してくれて、非常に助かっています。地域行事のスタッフの方からは、自分たちでアイデアを出して協力してくれるので、感謝していますという言葉もいただきました。</p> <p>・地理的に学区の端に学校が建っているため、保護者でも学校に来るのが面倒だったりすると思いますので、HPでの発信はすごく良いと思います。(tetoruの活用も同じ)。もっと一中のことを知ってもらえたらいいと思います。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。